

「こんにちは」 しています。

わだいとまわり

— 292 —

再プラガット

テニスを趣味としていますが、先日スポーツ用品店にラケットのガットの張り替えに行きました。かつては羊などの腸から作られていましたが、今ではナイロン製やポリエステル製のストリング（糸）が主流になっています。

店内には、打球感や耐久性、太さなど豊富な種類のガットが並べられていましたが、売り場で驚いたことがあります。店主に紹介されたのが初めて見る「再生プラスチックから作られたガット」

でした。

「エコを意識して包装もこんなに簡単になっている」と、まだ若い店主から「エコ」の言葉が当たり前に出たことにも、あ、エコジカルな認識は（こ）まで一般的になったんだ、と感銘を覚えたのでした。ガットはほとんどポリ袋に個包装されていますが、それは簡単な紙の表示で挟まれているだけでした。

そのガットの製造は世界有数のストリングメーカー、ベルギーのL社。「100%リサイクルペットボトルを使用し、業界最先端のSDGsなス

エコジカルなテニス

トリング」と商品説明にあり「環境を変えろ、常識を変えろ」とも書かれています。

販売は世界的なスポーツブランドW社です。W社はテニスボールケースを紙製パックに移行。再生素材のバックなどさまざまな製品にもプラスチック素材削減仕様への変更をしています。また、L社の工場で使用するエネルギーは自社工場の屋根に設置したソーラー発

電で100%供給しているとのこと。企業の環境問題への取り組みが企業価値を高める新たな評価指標になっています。脱プラスチックへの取り組みがスポーツの世界にまで展開されていることが新鮮な驚きでした。

プラごみ大国日本

プラスチックは海洋汚染や地球温暖化の主要な原因となっており、プラスチック汚染根絶のための脱プラスチックが世界の共通課題になっています。



スポーツの世界にも脱プラ
スチックの動き

プラスチックは自然界では半永久的に分解されず土壌や海など自然環境中に残り続けるため深刻でやっかいなリスクを抱えている素材です。

世界のプラスチック生産量と廃棄量は増え続け、リサイクルはわずか9%、そのほとんどがゴミとして廃棄されています。

プラスチックゴミは最終的に海へと流出し、世界中で年間約1000万tの量が海に流れ込み、2050年には魚の重量以上に増加するとの試算もあります。微細に砕けたマイクロプラスチックが海の生き物に取り込まれ悪影響を及ぼすばかりか人間にも影響は免れません。また生産過程においても焼却するにしてもプラスチックはCO₂を排出します。

日本はプラスチック容器包装の1人当たり廃棄量がアメリカに次いで2番目に多いプラスチックごみ大国です（2018



便利なプラスチック製品だが…

国連報告）。不名誉な順位です。

日本のテニスイ人口は343万人（2020年日本テニス協会）。成人のテニスイ人口の約3割が50代以上の中高年。プラスチック製品の恩恵を受けてきた世代です。

人生の後半、子や孫の世代に美しい地球環境を残すため、環境に配慮した製品を選ぶ、水分補給にマイボトルを使用するなど、小さな心がけを積み重ねながら、健やかな気持ちでスポーツを楽しむもつではありませんか。

湯崎真梨子（ゆざき まりこ）

和歌山大学食農総合研究教育センター客員教授

元和歌山大学教授、博士（学術）。専門は農村社会学、地域再生学。自らの研究に加え、地域と協働するプロジェクト研究をマネジメントしている。



プロ
フィル